

日没後に はねられる事故多発

夕方以降の外出時・・・ 反射材を

50メートル先に立つ人がどう見えるか、実証実験
黒い服は目視で、ほとんど確認できないが、
反射材を着けると、運転手からより認識しやすい

2023年11月16日 19時57分

日没後に歩行者が車にはねられる事故が相次いでいます。

そうした中、事故防止のカギを握るとされるのが「**反射材**」で、警察は夕方以降の外出時に**反射材**の着用を呼びかけています。

日没後の事故が相次いでいて、

14日夕方には函館市の市道で女性（73）が散歩中に車にはねられ死亡しました。

現場は片側1車線の直線道路で、警察によりますと、車の運転手は「歩行者に気づくのが遅れた」と話しているということです。

例年、日没が早まるこの時期、歩行者が命を落とす事故は増える傾向にあり、警察が対策のカギを握るとするのが**反射材**です。

15日夜、函館市でその効果を確認する実演が行われ服装の色の違いや**反射材**を着用しているかで50メートル先に立つ人がどう見えるかを比較しました。

その結果、**黒い服**では目視でほとんど確認できないのに対し、**反射材**をつけると車の運転手からもより認識しやすいことがわかり、警察は夕方以降の外出時には**反射材**の着用を呼びかけています。

道警函館方面本部交通課の次席は「車と歩行者の交通事故が増えているので、バックや靴ひもに反射材がついているものもあるのでぜひ活用していただきたい」と話していました。